

総合保育園 サンクト・ヨーンスパイク 訪問

お話：P・I・C 総合保育園園長 シャネッテ・ベントセン
レポート：松井加奈子

★はじめに

総合保育園 サンクト・ヨーンスパイクは、私たちの宿泊施設であるダンホステルから徒歩 15 分ほどの所にありました。

保育園らしくない園舎の小さなドアを開けるとたくさん子どもたちの写真と自由に描かれた絵画などが私たちを迎えてくれました。

デンマークでは基本的に 0 歳児から 2 歳児までの乳児保育と 3 歳児から 6 歳児までの幼児保育、6 歳児から 9 歳児までの学童保育の 3 つの保育がありますが、最近は乳児と幼児保育を合わせて運営する総合保育園が増えてきているようで、サンクト・ヨーンスパイクも乳児保育と幼児保育を行っている総合保育園です。



もとと一緒にアフター 4 を楽しむことが日課となっているとのことでした。1 日の流れは乳児、幼児とも午前中に教育的なアクティビティーを取り入れ、戸外遊びは午後からになります。

★クラス編成と職員体制について

	人数	保育室	職員数
0 歳児 ～ 2 歳 児	33 名	年齢別保育 3 つの保育室 で保育	7 名
3 歳児 ～ 6 歳 児	44 名	2 つの異年齢 クラス (5 歳児は就 学に備えて 半年前から 単独クラス	5 名
合計	77 名		12 名

保護者の労働時間と保育時間は週に平均 27H～37H の労働時間で、保育時間は 6:30～17:00 月曜日から金曜日のみの保育を行っています。

それぞれ保護者の仕事が終わる次第、お迎えに来られており 15:00～16:00 頃が仕事終了、お迎えのラッシュになり、その後は子ども

★基本的なディリープログラム

	乳児保育	幼児保育
9:00	合同保育 軽食 (おやつ)	合同保育
9:30	教育的アクティ ビティー	教育的アクティ ビティー
11:00	昼食 午睡 戸外遊び	昼食 戸外遊び
14:00	軽食 (おやつ) 外遊び	軽食 (おやつ) 戸外遊び
	順次降園	順次降園

① 午睡について

乳児組の子どもたちは園舎横のスペースに乳母車がありそこで午睡をします。子どもは外気に触れて眠ることで、2～3 時間は眠るとのことです。余程寒い時でない限りはこのスペースで午睡します。



幼児組の午睡については現在1週間のうち2日、試行的に音楽をかけリラックスタイムとしてマッサージをしながら、横になる日を設けているようで、そのような時間を設けることで、ほとんどの子どもに好評のため継続を考えているとのことでした。3歳児の中にはそのまま眠ってしまう子どももいるそうです。

② 行事について

乳児、幼児ともに年間6つのテーマで2か月ごとに行事を開いているので、二か月に一度は園全体で行事をしています。これからはクリスマスの行事に向けて楽しい催しがあるとのことでした。

また、1週間に一回、雰囲気を変えるために森や町など園外に散歩に出かけるそうです。私たちがロスキレの街を歩いても、園外散歩に出かけている子どもたちとすれ違うことが数回ありました。

③ 書類の記入について

保育室の置かれているノートに1日の流れを書くことと、特別に準備してもらいたいものがあれば、その都度、保護者向けのお便りを作成するそうで、カリキュラム等はデンマークの教育プランが存在するので、それに基づいてデンマークの保育が展開されているとのことでした。

しかし、子どもの発達の記録的なものや子

ども一人一人の教育的なプランがほしいのではないかということで、国の法律として記録することが義務付けられようとしており、そのためにロスキレ市では保育士対象に2週間の講習が開催されたそうです。(学校ではすでに取り組まれていること)

④ 保育の中で大切にしていること

* 乳児保育：乳児ではあるが、自分のことは自分でできるようなかかわりの工夫が求められています。また、将来的なことも考慮され、友達とのトラブルに対する解決の仕方であったり、折り合いの付け方などが中心に伝えているそうです。

* 幼児保育：学校就学等、教育機関への移行を考えた内容の活動や友達同士のかかわりが深まっていくような、またトラブルの解決方法などを具体的に知らせているそうです。

社会の一員と言うことを感じられるかかわりや、社会性と自立性を育てるためにはやはり、子ども一人ひとりをよく知り、強い面や弱い面など把握したうえで関わるのが大切だとお話いただきました。

乳児、幼児とも社会人になる基本的なところ、社会性の基盤になるところをどのように育てるかを重要に考えているとのことでした。





いろいろなお話を聞かせていただいても、保育体制は日本と何ら大きく変わりはなく、環境も現在、私たちが目指して変わろうとしている環境であることから、それほど保育内容に大差はないのに、この国の人たちに感じられるゆとり、周りに流されず自分らしく自分に自信をもち生きることを楽しんでいるように感じる笑顔や表情は何だろうと、考えました。

やはり、デンマークの一人の民として生きる上での根本的な何かが日本とは異なっていること、それしか考えられないと思いました。文化、歴史、国民性、環境と様々な違いがある中で、今いきなり日本と言う国を変えることはできないと思います。

それでも、これからの日本を担っていく子どもたちに私たちが大人の責任として、何を大切にしてどんなふう to 育ててほしいのか、実際、子どもと関わる生活をさせている私たちがしっかりと考え、実行していかなければならないと、強く感じました。

★感想

私は総合保育園サンクト・ヨーンスピーアグに訪問させていただき、子どもたち、保護者、職員、誰を見ても生活にゆとりをもち、生きることを楽しんでいるように強く感じました。

